

水戸城下の雛まつり



水戸市立博物館 3階展示室

入場無料 水戸市大町3-3-20

TEL 029-226-6521、月曜日・年末年始休館

令和3年12月4日(土)～



4年3月6日(日)



水戸城下の雛まつり

1. 平安時代のひいな遊び

平安時代の姫君の日常の遊びとされていて、現在の雛人形のルーツの一つとされている「ひいな遊び」とは、どのようなものなのでしょうか。

「源氏物語」や「紫式部日記」を読むと、以下のことがわかります。

「ひいな遊び」とは

- ・季節は問わないもの
- ・「ひいな遊び」は、日常のままごと遊び
- ・ひいなのお殿は紙で作られていた。
- ・「ひいな」の形は、紙製で、立ち姿。現在の姉様人形のようなものか。



平安時代の姫君の「ひいな遊び」

2. 王朝文化へのあこがれー 御殿雛(紫宸殿・源氏柩)



紫宸殿 (ししんでん)



源氏柩(げんじわく)

京都・大阪を中心とする関西文化圏では、江戸時代以降昭和初期ぐらいまでは、紫宸殿と源氏柩の御殿雛が一般的でした。御殿の中に雛を飾るという形式は、まさしく古^{いにしえ}の王朝文化の憧れを具現化したものと思われます。京都に御所をいただく関西文化圏ならではの発想だったのでしょうか。

